熊野古道(世界遺産)

和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山　　2023年 3月18日

大門坂からの 熊野那智大社&那智の滝

タイムスリップ・・・平安衣装を纏った女性とすれ違った

本日のコース ＜全行程 2時間＞

大門坂駐車場 13:15 → 大門坂登り口 13:20 → 大門坂茶屋 13:25 → 夫婦杉 13:26 → ＜熊野古道を歩く・・・平安時代にタイムスリップ＞ 13:36 → 駐車場 13:47 → 表参道 13:50 → 熊野那智大社 14:03 → 那智山青岸渡寺 14:11 → 那智の滝を展望 14:15 → 三重の塔 14:21 → ＜那智の滝へ石段を下る＞ → 飛瀧神社 14:42 → 那智の滝 14:46 → 那智の滝バス停 14:56 → 大門坂駐車場 15:15

早朝、伊勢神宮と猿田彦神社(三重県)に参拝し、その後、いつかは歩いてみたいと思っていた熊野古道(和歌山県)を目指した。午後からはあいにくの雨だったが、雰囲気溢れる古道に感動。

大門坂駐車場　13:15　雨模様の影響で駐車場はガラガラ

伊勢神宮から車を飛ばし、紀伊半島を南下。「お腹が減っては・・・」と、那智勝浦漁港の「にぎわい市場」に立ち寄り、マグロ丼で腹ごしらえ。その後、雨を気にしながら大門坂にやってきた。

熊野古道　大門坂登り口　13:20　雨は降ったり止んだり。でもここまで来たら登るしかない。

覚悟を決めて、さあスタート！

鳥居を潜り、赤い「振ヶ瀬橋」を渡る　13:24

那智山周辺案内図　　那智大社までは1．2km（最初は石段と杉並木が640m続きます）

熊野古道（くまのこどう）は、熊野三山（熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社）へと通じる参詣道の総称。熊野参詣道ともよばれる。紀伊半島に位置し、道は三重県、奈良県、和歌山県、大阪府に跨る。2004 年に世界文化遺産に登録された。

大門坂茶屋　13:25　茶屋の横にある那智の七石「鏡石」（祈り石）

この大門坂茶屋で平安衣装を貸し出している。平安衣装を着て熊野古道を歩くことが、静かなブームになっているようだ。

夫婦杉　13:26　樹齢800年の夫婦杉の間に熊野古道。

古道の両脇には大木が立ち並ぶ　13:30　吸い込まれるように歩く

この道は熊野古道の中でも最も古(いにしえ)の雰囲気を残す道です。
暫く歩くと、上の方から着物を着た人が歩いて来るではないか・・・。

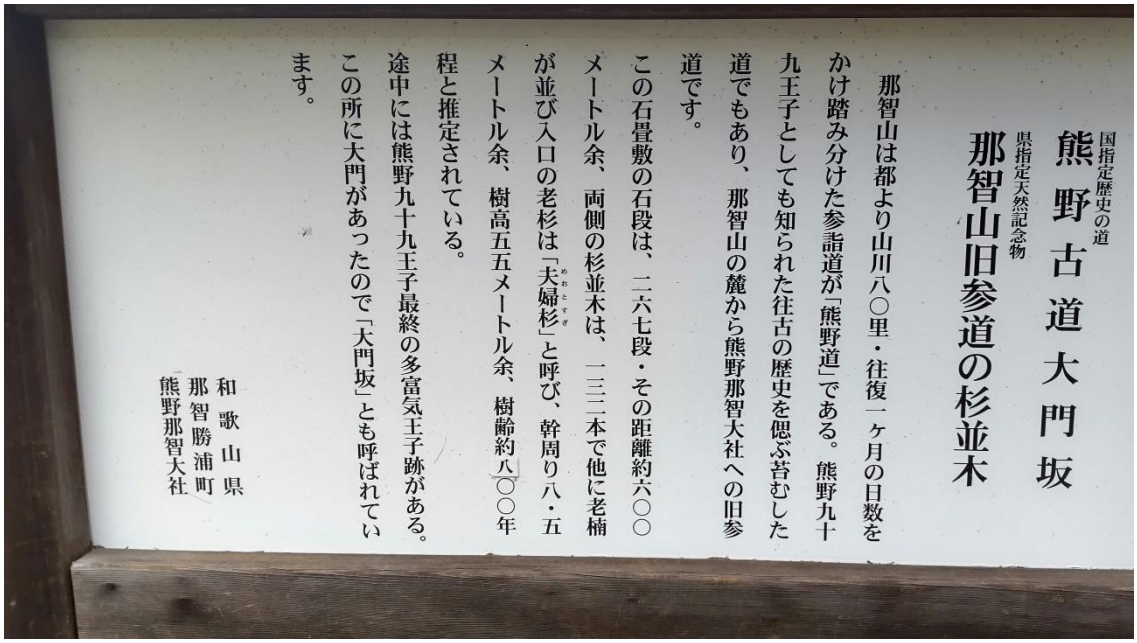
そして、平安衣装を着た人とすれ違う 13:36 この瞬間、タイムスリップした感覚に・・・。

この着物は「壺装束」と言われる衣装で、平安時代から鎌倉時代にかけて公家の女性が外出するときの衣装。雰囲気ある熊野古道に現れた「壺装束」の女人、狐に化かされた心境だった。
どうやら先程、夫婦杉近くで見た「大門坂茶屋」でレンタルしていると思われる。

古道の石段は続く　13:43　雨は降っているが杉木立に遮られて小雨状態

平安時代から、多くの人々が「癒し」を求め訪ね歩いた熊野古道。その聖地である那智大社への登り口となる「大門坂」は杉木立が両側に立ち並び、美しい石畳が幾重にも折り重なった坂道。古（いにしえ）の面影を今も鮮明に残し、独特の雰囲気を感じさせます。

駐車場に辿り着いた　13:47　先に着いた家内が待っている



大門坂と杉並木の説明看板

この石畳敷の石段は267段･その距離約600m余、両側の杉並木は、132本で他に老楠が並び入口の老杉は｢夫婦杉｣と呼び、幹回り8. 5m余、樹高55m余、樹齢は800年程と推定されている。　＜説明板より抜粋＞

駐車場を右から回り込んで参道へ　13:47

那智山参道入口 13:50　ここから階段

那智山参拝道案内看板

熊野詣とは･･･

遠い昔より「エッチラオッチラ」自然と親しみ神様仏様を拝みつつ歩いて見て回り、身も心も清められ、我を悟りお土産を買って家路に着いたのが、今に伝わる蟻の那智参りと申します。

＜案内板より抜粋＞

参道では碁石や硯の売店が目立った　13:56

熊野那智大社の入口　13:57　雨脚が強くなってきた

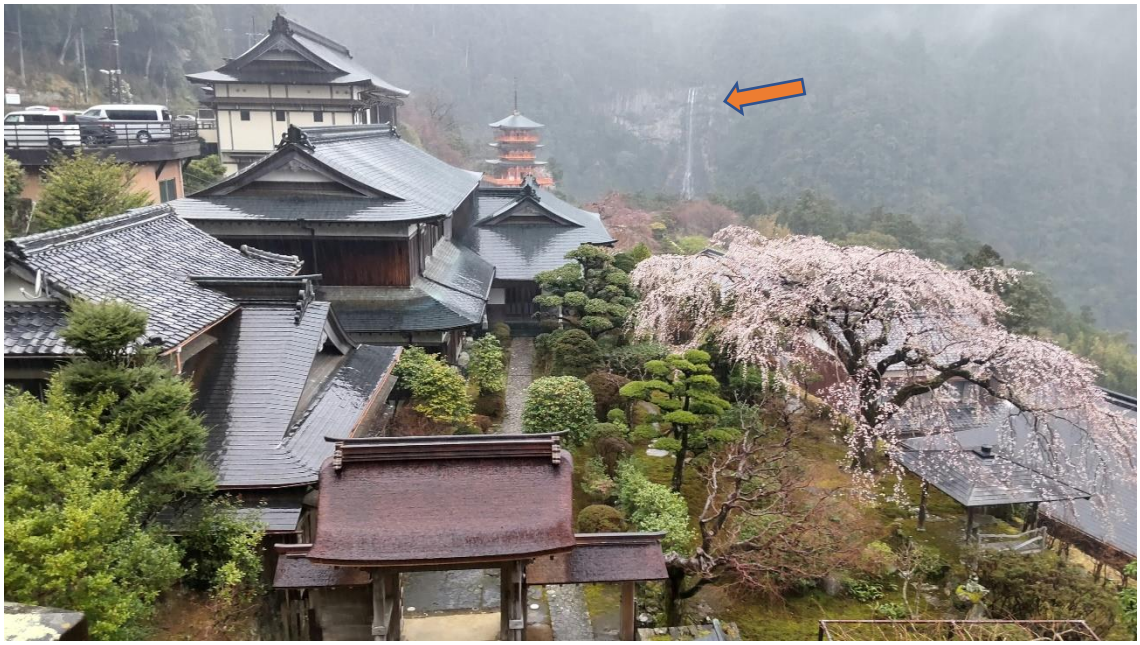
熊野那智大社　14:03　境内では土砂降り😥
平日、しかも雨の中とは言え多くの方が参拝されていた

お清めのご摩木

熊野という地名には諸説ありますが、紀伊続風土記には「熊野は隈にてコモル義にして」とあり、「奥まった処」「隠れたる処」との意が、また「クマ」「カミ」とは同じ意があると考えられ、「クマノ」とは「カミの野」で神々が住まう地と言えます。　　＜御由緒より抜粋＞

那智山青岸渡寺（なちさんせいがんとじ） 14:11

西国三十三所観音霊場の第一番札所です。
桃山時代に織田信長の焼き討ちに逢いましたが、豊臣秀吉により再建されました。



那智の滝(矢印)を展望　14:15　この風景が心に残った
那智山青岸渡寺の展望所から雨で曇った「那智の滝」を眺める
これより雨の中、「那智の滝」を目指して歩く、歩く、歩く。

三重の塔　14:21　雨に濡れて風情たっぷり
三重塔は 1972 年に再建された新しい宝塔で、熊野詣のシンボルとなっている。那智の滝との写真が有名で、三重塔の内部はカラフルな曼荼羅が埋め尽くしており、独特な仏教世界が広がっている。エレベーターで上がることもでき那智の滝が見下ろすことができる。

沿道に何本もミツマタが咲いている　14:25

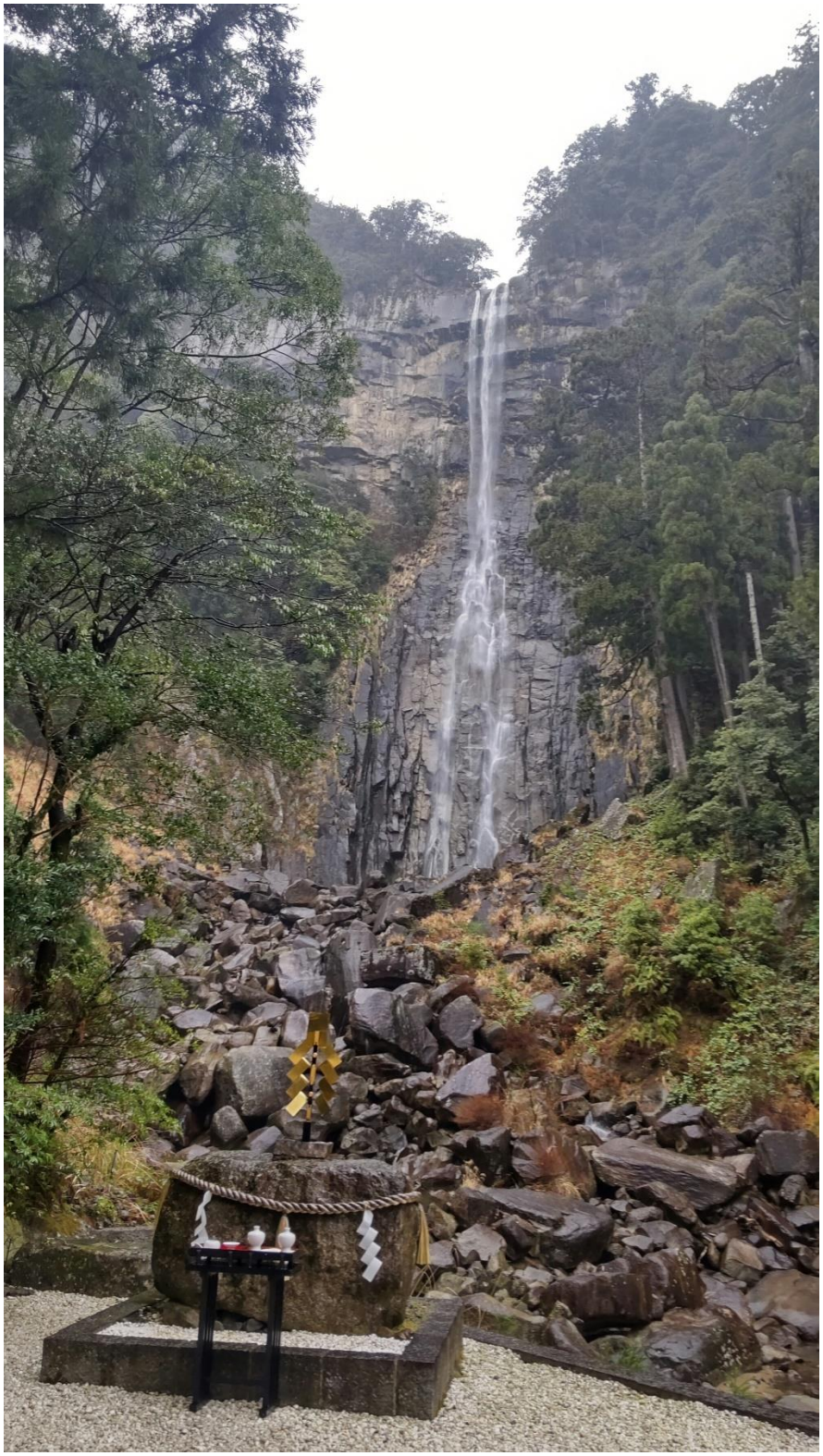
長い石段、急な石段　14:32　濡れて危ないので恐る恐る下る

この道は車道をショートカットしている。車道を下ってもよかったみたいだが、我々は近道となるこの石段をゆっくりゆっくり下った。

元気のいいバックパッカー系の外人さんも多く、熊野古道を堪能しているようだった。

飛瀧(ひろう)神社へ　14:40　石段を下り車道に出たら左手に駐車場
駐車場の右横に飛瀧神社の白い鳥居がチラリと見えた。

飛瀧神社の白い鳥居　　14:42　　鳥居を潜り石段を下ると那智の滝。



那智の滝　14:46　　世界遺産

那智大社の別宮、飛瀧神社の御神体として崇められる落差 133m日本一の滝です。

国指定名勝・日本の滝百選・日本の名水百選・日本の音のある風景百選

飛瀧(ひろう)神社　14:42

西暦紀元前 662 年、神日本磐余彦命の一行は丹敷浦(現在の那智の浜)に上陸されました。一行が光り輝く山を見つけ、その山を目指し進んで行ったところ、那智御瀧を探りあてられ、その御瀧を大己貴神(おおなむちのかみ)の現れたる御神体としてお祀りされました。神日本磐余彦命の一行は天照大神より使わされた八咫烏の先導により、無事大和の橿原の地へお入りになられ、紀元前 660 年 2 月 11 日に初代天皇、神武天皇として即位されました。先導の役目を終えた八咫烏は熊野の地へ戻り、現在は烏石に姿を変えて休んでいるといわれています。(ホームページより抜粋)

那智の滝から石段を上り返してバス停へ　14:52　既にズボンや靴はずぶ濡れだ！

那智の滝バス停　14:56
既にたくさんの人が並んでいた。

南海バス「那智の滝前」バス停
やって来たバスは紀伊勝浦駅行だった。
大門坂まで250円

大門坂バス停　15:14　満員のバスから下車

大門坂駐車場　15:15　ゴール

初の那智大社詣が終了。雨の中だったがなんのその、「熊野古道」「那智大社」「青岸渡寺」「那智の滝」と世界遺産を次々と巡って楽しいひと時を過ごした。2時間があっという間だった。
また熊野古道を訪れたいと思うが、今回は伊勢神宮に立ち寄りウロウロしたせいか、北九州から走行距離は往復で1772km。片道でも丸一日かかってしまう。今度はいつ行くことが出来るのだろうか(笑)・・・お疲れ様でした。

旅の思い出

伊勢神宮内宮　7:30～

猿田彦神社　8:30～

那智勝浦漁港　にぎわい市場　12:05～

マグロまかない丼(1250円)